

# ライフケアガーデン熱川 別館

症 例 概 要 利用者：70代 女性 要介護4

病名：双極性障害、両側変形性膝関節症、変形性腰椎症、高血圧症

W県出身。大学進学を機に上京し結婚、1男1女をもうける。

子育てしながら長年嫁ぎ先の寺の仕事を手伝っていた。

2005年、うつ病を発症、心療内科への通院を繰り返す。原因は問題児を寺で預かったことであった。

2019年、電気療法を行った後躁状態となり、双極性障害と診断。親族や近隣住民とトラブルを起こすようになる。

2022年3月、旅行先でレンタサイクルを利用した際に高速道路へ侵入。自転車を紛失し警察沙汰になるとともに、浪費による多額の借金が発覚する。

2022年4月、都内の精神科へ医療保護入院。躁状態による介護拒否や職員への暴言が著明であった。

2023年9月、状態が落ち着いてきたことから退院期限を迎える。

ご家族は自宅への退院を拒否し、紹介会社を通して当施設に入居となる。

2023年12月、躁状態が出現。表情は険しくなり、浪費欲求や被害妄想等を訴えるようになる。

ご入居者が安らぎと充足感溢れる生活を送ることができるよう取り組んだ結果、穏やかな心と笑顔を取り戻すことができた事例。

## 内 容

ご入居者は元々世話好きで穏やかな性格であったとのことで、入居後3ヶ月程は体操やレクリエーションに参加する等、穏やかに当施設での生活を楽しまれていました。しかし、2023年12月頃より落ち着きのない言動が目立つようになり、職員に対して様々な難しい訴えをするようになりました。ご家族に様々な訴えがあったことを相談させて頂いたところ、浪費やご近所トラブルに悩まされた経験から、本人の訴えを鵜呑みにしないよう要望がありました。職員はご入居者のもとへ伺い、ご家族が心配しているので無理なお願いを控えて頂きたいことをお伝えしました。ご入居者は職員のお願いを受け入れてくださるものの、自分の思い通りにいかないことが度重なることで次第にご家族や職員に対して被害妄想を抱き、ご家族を口汚く罵ったり職員に強い口調で詰め寄ることもありました。

これに対し職員は双極性障害の躁状態について理解を深め、ご入居者が安らぎと充足感のある生活を送ることができるよう取り組みました。

ご入居者は自分が何でもできると思い込み、気分が高揚してコントロールできない状態にあることを職員は理解し、価値観を共有する傾聴と声掛けを行いました。ご本人の言うことを否定せず聞き役に徹したうえで、ご入居者を心配し気にかけていることを落ち着いた口調で根気強く伝えました。同時に食堂や居室にてヒーリングミュージックを流したり居室の様態替えをご入居者と一緒に行い、気分の高揚を抑え、リラックスできる生活環境作りを共に行いました。また、ご入居者がかつて嫁ぎ先のお寺の清掃や庭の手入れを熱心に行っていたという情報から、施設内庭園の整備や花植えを一緒に行わないか提案、食堂の壁画作りの主要メンバーになって頂くことで昔を思い出しつつ自分が周囲の人たちから頼りにされていることを実感して頂き、自信と達成感を得ることができるよう取り組みました。さらに幸せホルモンTQM活動で得た知見からご入居者に福祉ネイルを実施、優しく手を触れ合い和やかな会話と綺麗に彩られる爪をご覧になることで心穏やかに楽しんで頂きました。

次第にご入居者の話の中で無理な願いは無くなり、ご家族を罵ったり職員に詰め寄ることも無くなりました。かつては離設やトラブルのリスクからお誘いできなかった外出レクへ参加できるようになり、穏やかな笑顔で当施設の生活を楽しまれています。また、庭園整備や壁画作りを通して他のご入居者との交流も生まれ、現在では施設内活動の中心的存在として笑顔をみせています。

ご入居者の症状について理解を深めるとともに、安らぎと充足感溢れる生活を送ることができるよう職員一丸で取り組んだ結果、不穏が治まり穏やかな心と笑顔ある生活を取り戻すことができキラキラとした毎日に繋がったこの事例を今回キラキラ介護賞候補として推薦いたします。